

丹生川ウグイ漁見学会（報告）

OsT 会員の御厚意により 5 月 31 日（土）に催されました。萱刈畑橋上流の右岸に同氏の瀬付き漁場があります。残念ながら産卵期は終わりに近くなって、集まるウグイも少ないとのことでしたが、目の前で大きなウグイが投網に入りました。ウグイの外に大きなカジカも一緒です。



瀬付き漁場に使われる川石は、表面の藻などの汚れをきれいに除去するために、天日に晒してあります。瀬付き漁には、各種の工夫が見えます。



漁の見学が終わると、昼食時に OsT 会員がウグイを御馳走して下さいました。ドラム缶で作ったオープンの中で、こんがり全体が実に美味しく焼いていました。炭火焼きを河原で食べられるという贅沢をさせてもらいました。



ところで、投網に掛かったウグイとカジカの外には、アブラハヤ、アユ、スナヤツメを目視することができました。

引き続き、OsT 会員の御案内で丹生川の工作物を確認しました。

まずは、ウグイ漁場の上流にある農業用水用の堰堤に設けられた魚道です。元々は魚道として問題なく機能していたそうですが、近年の大水によって魚道の登り口が 2 m も洗掘されて大抵の魚類が遡上できなくなったそうです。再



び魚が遡上できる魚道に戻すためには、洗掘された魚道の登り口に六脚ブロックなどを追加する必要があります。かなり大きな経費が必要になりますが、是非、河川管理者にお願いしたいものです。

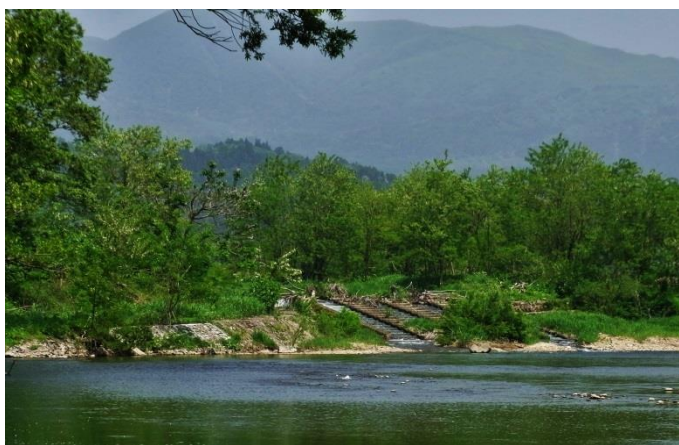
河道が直線的に改修されたために、増水した時には水のエネルギーが減衰されることなく流下しますので、昔よりも川底を洗掘しやすくなっています。水のエネルギーを減衰する工夫を用いた河川改修が必要です。



六脚ブロックA形

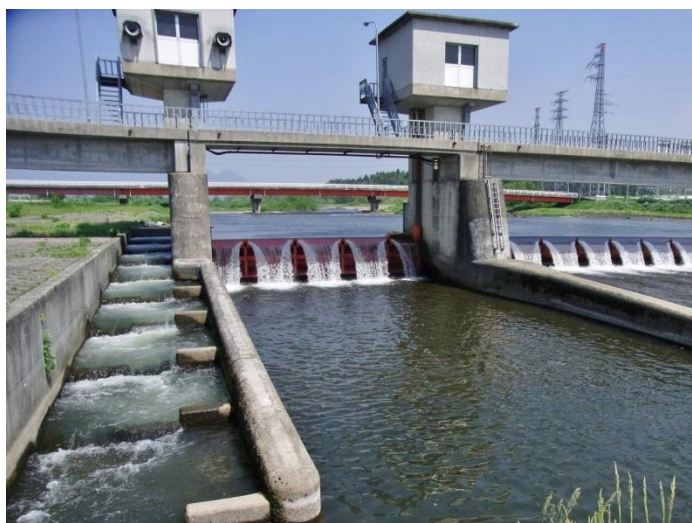
 技研興業株式会社

さらに上流に目をやると、赤井側との合流点が見えました。合流点における赤井川の川底は、丹生川のそれよりもかなり高いために、赤井側の川幅いっぱい階段状の魚道になっています。押切氏と星川氏の話によると、昔の赤井川の流れは、この合流点よりもずっと下流の荻野袋まであ



ったそうですが、大規模な河川改修で現在の流れになったそうです。河川の流路が短くなれば、当然、川底の傾斜がきつくなってしまいます。そこで、新しく作られた赤井川の流れには、河川の勾配を緩和する約10か所もの堰堤が築かれました。そのすべてに魚道が作られたようです。

次に下流に移って和田橋の近くの頭首工を確認しました。魚道は壊れていないようです。ここでアオサギ、カルガモの外に珍しい鳥を確認できました。それはミサゴです。ホバーリングをしていたこと、鳶でない鷹の仲間であったこと、羽の裏側が白っぽいなどの特徴を示しています。丹生川には餌となる生き物が豊富である証です。



注 ホバーリング; 空中に停止した状態での飛翔。